

日本とアメリカの大学生の歌舞伎の認識

アラン・コエロ

カリフォルニア州立大学モントレイバイ校

要旨

歌舞伎は日本の代表的な伝統芸能である。歌舞伎独自の特徴ある舞台装置、衣装、化粧等で世界でも知られている。この世界は男性だけが参加でき、女性は舞台に上がることはできない。また最近スーパー歌舞伎という新しい歌舞伎も人気が出てきている。このキャップストーンでは日本とアメリカの大学生はどのように日本の伝統芸である歌舞伎を見ているのか。また、今の若者たちは歌舞伎の本質を理解することができるか。等に焦点をあて調査を行った。アメリカ人30名、日本人30名にアンケート調査を行った結果、アメリカの方が日本人より歌舞伎に興味があることがわかった。日本人は女性が歌舞伎で舞台に上がることに 대해서는否定的な意見を持っているのに対し、アメリカの学生は女性にも歌舞伎の世界を開くべきだという見解を持っていることがわかった。またアメリカの方が日本人より歌舞伎独自の化粧で表現する怒りや、悲しみ、嫉妬等の感情を理解できたことには驚いた。

はじめに

歌舞伎には多数の種類がある上、歌舞伎役者は男だけのユニークな世界である。音楽は三味線と笛竹で単純な舞台装置になっている。日本とアメリカの大学生はどのように日本の伝統芸である歌舞伎を見ているのか。また今の若者たちは歌舞伎の本質を理解することができるか。この研究では日本とアメリカの大学生の歌舞伎の認識の相違について追求する。

1. 研究の重要性

私が日本に留学していた時に伝統的な歌舞伎を見て、歌舞伎はどのように若者たちから見られているかに興味を持った。日米の若者が伝統的な歌舞伎の本質をどのくらい把握することができるかどうかを知りたいと思った。

2. 研究質問

1. 日本とアメリカの大学生の歌舞伎に対する認識は何か。
2. 現在社会の若者たちは歌舞伎の本質を理解することができる。

3. 研究背景

3.1 伝統的な歌舞伎

歌舞伎には多数の種類があり、歌舞伎の俳優は男で、声、格好、色、模様、動き、的確な手振りが特徴である。また化粧も隈取といってとても特徴がある。音楽は三味線と笛竹で単純な舞台装置になっている (Pronko,2007)。

3.2 スーパー歌舞伎と人気

現在では、自由な発想と新しい解釈と表現の方法でステージを作ること、観客を引き付けることが重要である。スーパー歌舞伎は音楽の曲数や贅沢な化粧などブロードウェイ劇場から概念を借りた芸術の新しい歌舞伎である (奈津子, 2007)。このように歌舞伎は長い歴史の中で変化し、人気を得てきた。今では歌舞伎役者は日本のドラマでもよく活躍している。

3.3 伝統的な歌舞伎とスーパー歌舞伎の違い。

伝統的な歌舞伎とスーパー歌舞伎との違いについてだが、伝統的な歌舞伎は対話が昔のことばを使うためわかりにくい、スーパー歌舞伎は現代の言葉になっているからわかりやすくなっている。また衣装はスーパー歌舞伎の方が派手な上に舞台装置も精巧である。

3.4 歌舞伎の俳優と化粧

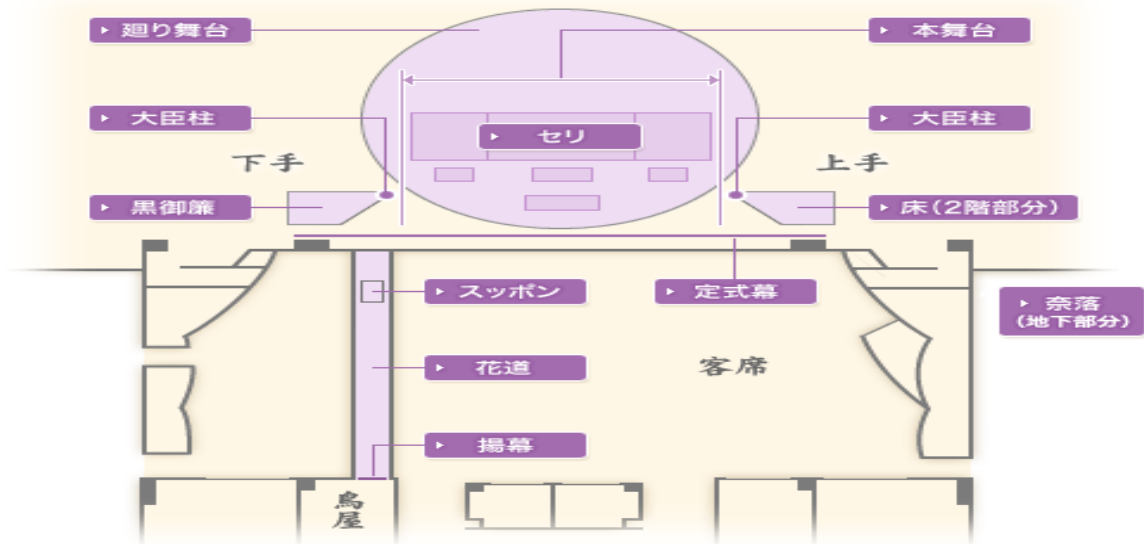
歌舞伎には大きくわけて荒事、和事、女形がある。荒事は力強い手振りで荒く、和事は温和で、上品で現実的な手振りが特徴だ (Leiter,2001)。女形は男が若い女性の役を演じる。歌舞伎は色や隈取で感情を表す。例えば、力強さのときは赤を使い (イメージ1)、悲しいときは青を使う (イメージ2)。利己的なときは黄色を使い (イメージ

3)、怒りを表すには線を赤黒で描きます(イメージ4)。衣装については、公家と悪役の衣装が華やかな衣装、和事には単純な衣装例えば江戸時代の百姓の着物、荒事には侍の着物を使用する。



3.5 歌舞伎の舞台装置

歌舞伎には3つの舞台装置がある。揚幕は舞台から見て「花道（はなみち）」の突き当たりにかかっている幕で、通常その劇場の紋が染め抜かれている。花道は「本舞台」で演じられている場面に合わせて、道・廊下・海・川岸などさまざまな場所に変化し、客席に近い観客に対して親近感を与える場所でもある。スッポンは「花道」の付け根あたりにある、小さな「セリ」のことをさす。



3.6 歌舞伎の歴史

歌舞伎は1603年に出雲で設立された。1628年に女性は伝統的な歌舞伎を演技することが禁止されたが、1629年には女形が設立され、1688年に荒事、1789年に事の役割が成立した。

1878年には東京の繁華街に新富座に、1889年には銀座に歌舞伎座が開かれにぎわった。1989年には新しい志向のスーパー歌舞伎が生まれ、ヤマモトタケルが歌舞伎座で6か月間にわたり満員となるぐらい人気が出た。

4. 研究

4.1 調査の対象

それではここで私の行った研究調査方法について説明する。合計60人の日本人とアメリカ人の大学生がアンケートを調査に参加してくれた。

4.2 調査方法

アンケート調査用紙を日本語と英語で作成し、オンラインでデータを集めた。

5. 結果

5.1 研究背景1：日本とアメリカの大学生の歌舞伎に対する認識は何か。

図1：歌舞伎の馴染み

「どちらの歌舞伎のスタイルに馴染みがありますか」伝統的な歌舞伎の馴染みに関しては、アメリカ人のほうが日本人より馴染みがあるようである（図1）。

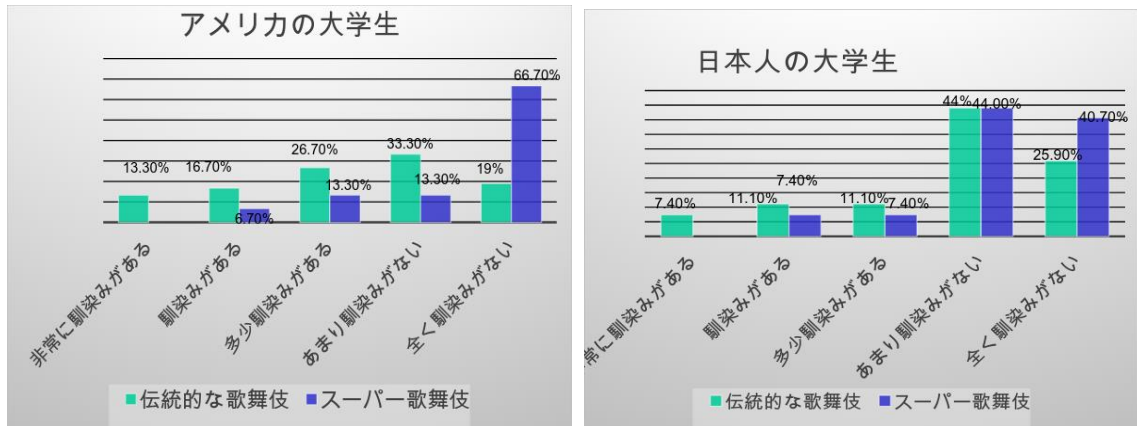
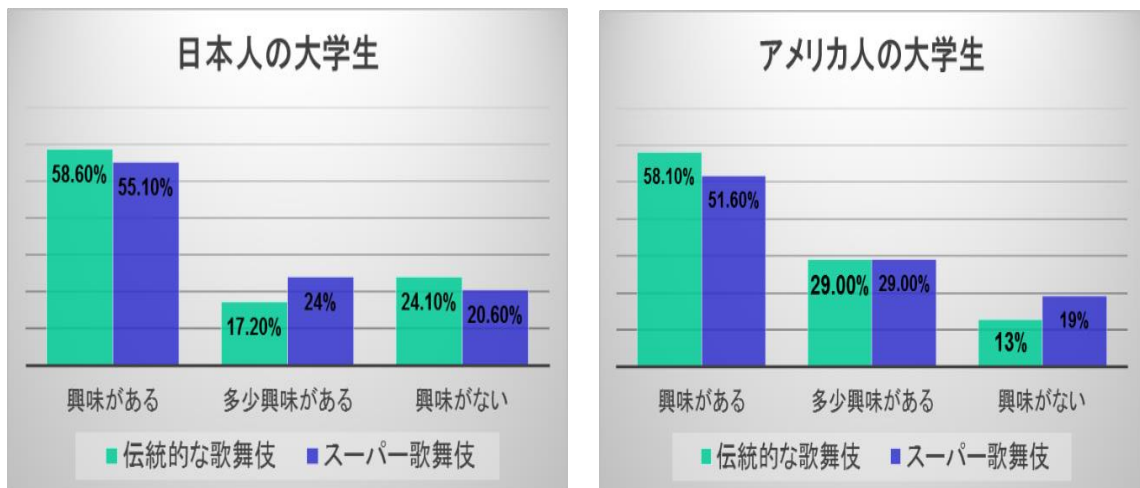


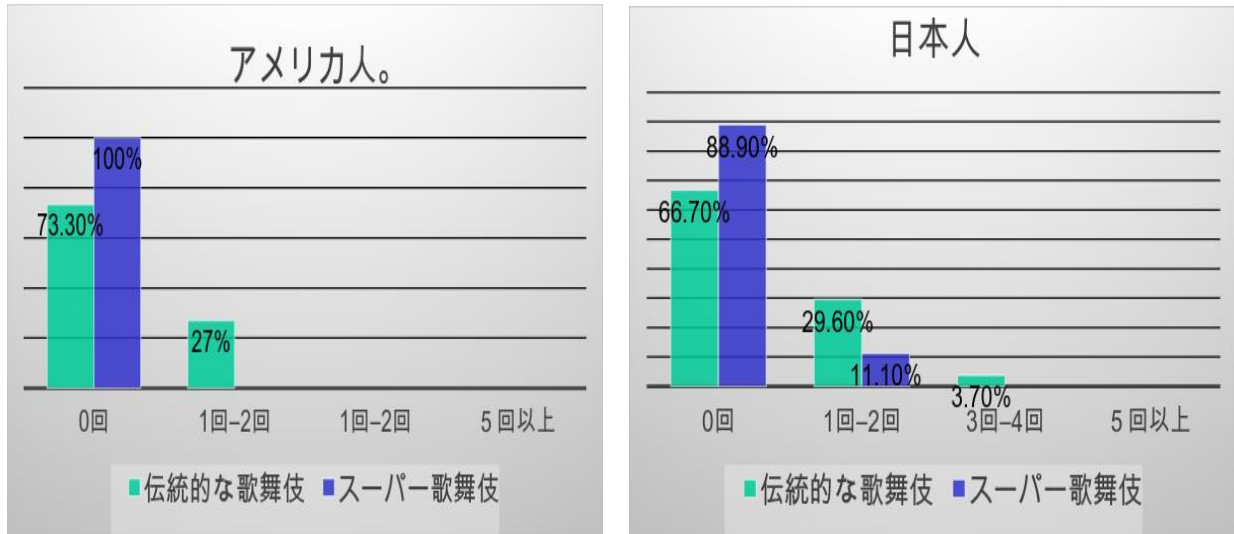
図 2 : 大学生はどの歌舞伎スタイルに興味がある

図 2 からわかるように、アメリカ人、日本人ともどちらの歌舞伎にも興味があるようである。



「劇場で伝統的な歌舞伎を何回見たことがあるか」アメリカ人も日本人も一度は劇場で伝統的な歌舞伎を見たことがあると答えた（図 3）。

図 3 : 歌舞伎を回見た



またどのような点を楽しんだかという点、アメリカ人は全ての面で歌舞伎を楽しんでいるが、日本人は特に演技と衣装を楽しむようである。アメリカ人と日本人では2番めにあげた物に違いがでました。アメリカ人は音楽、日本人は衣装と回答しました（図4）。

図4：歌舞伎の楽しみ方

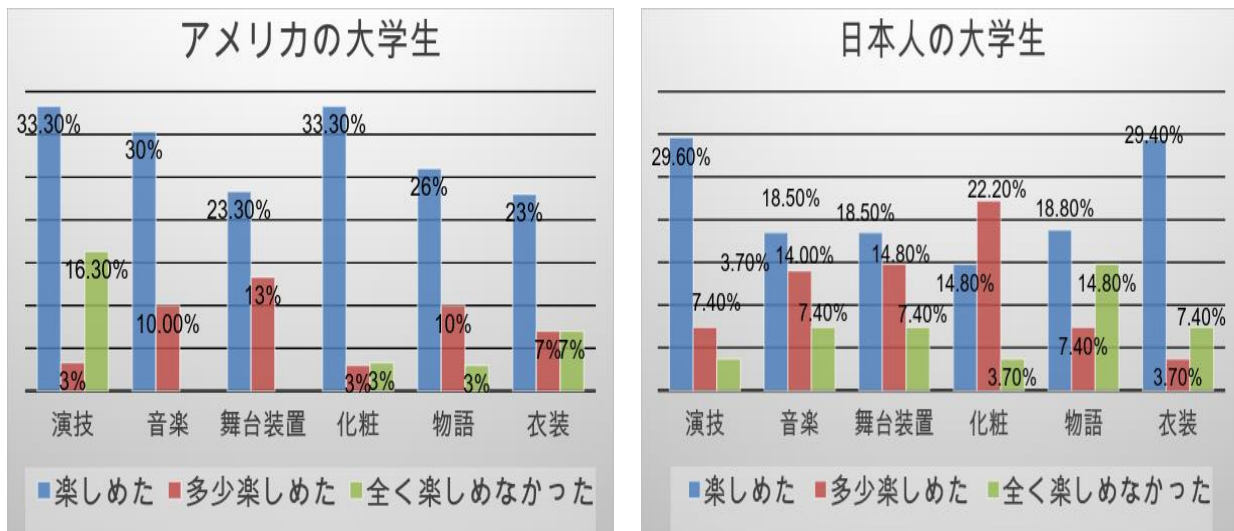


図5からわかるように、歌舞伎のジャンルに関してはアメリカ人と日本人は喜劇を劇場で見たいと思っている。

図5：歌舞伎のジャンル

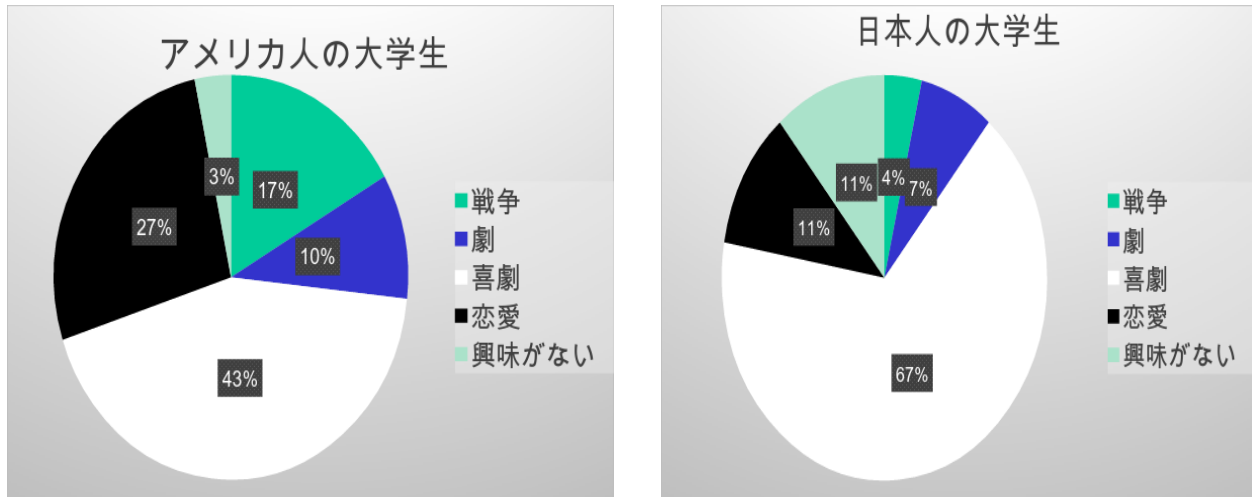


図6：伝統的歌舞伎とスーパー歌舞伎どちらの方が好き

アメリカ人のはどちらのスタイルも楽しむが50%、次にスーパー歌舞伎が多かった。日本人の場合は「どちらも」と答えた人と「伝統的な歌舞伎」と答えた人、スーパー歌舞伎と答えたのが同じ30%の割合だった（図6）。

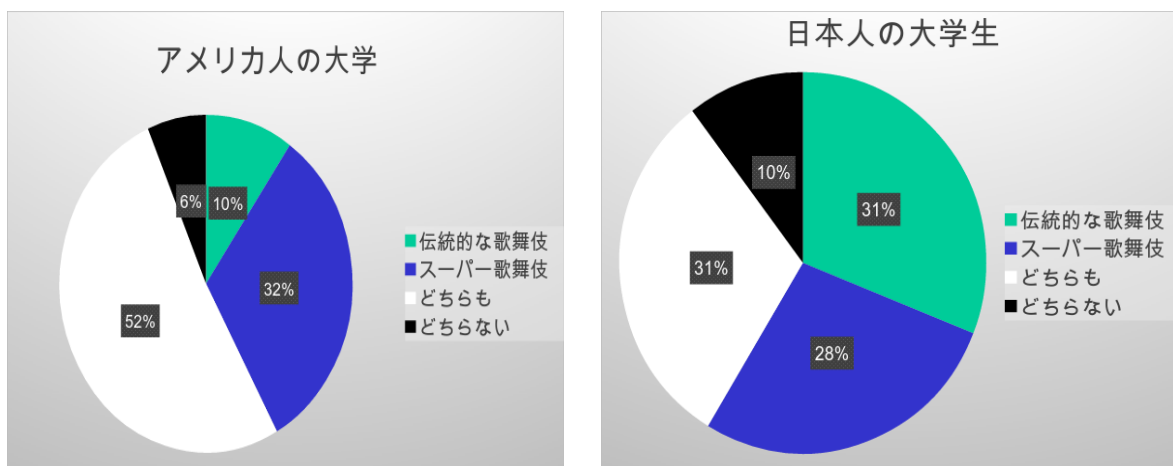
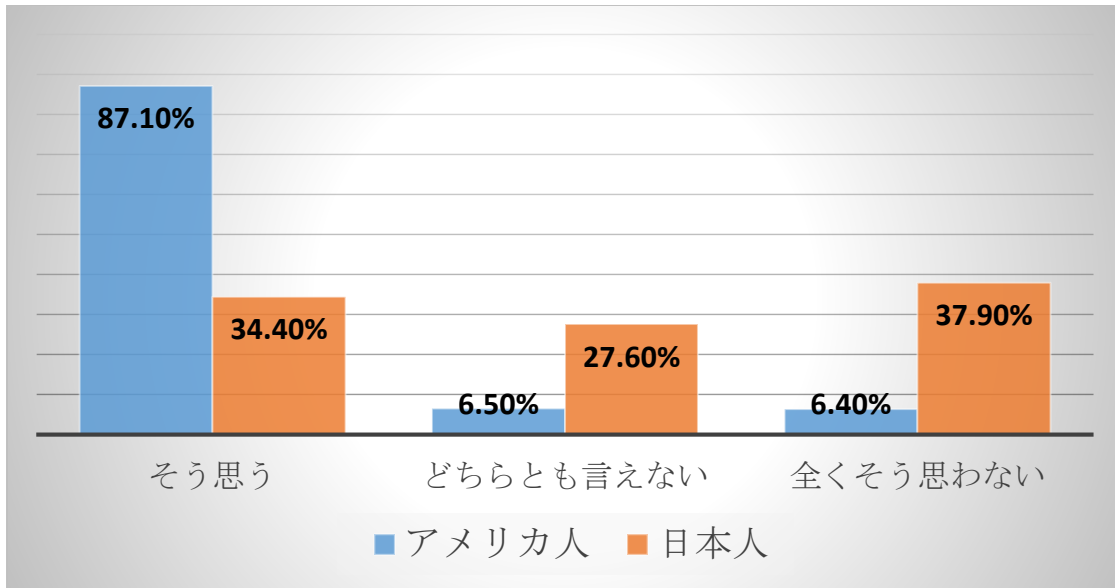


図7：歌舞伎界の男女平等について

歌舞伎の中の男女平等に関してはアメリカ人の方が日本人より歌舞伎で男女平等があるべきと答え（図7）。

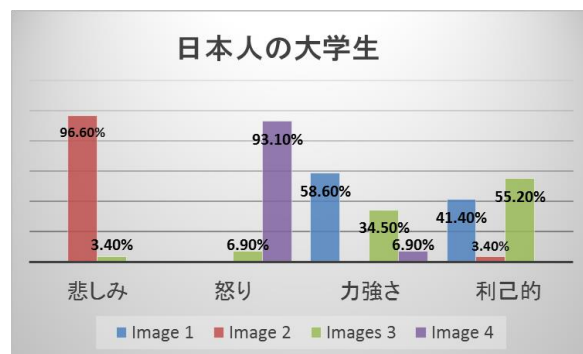
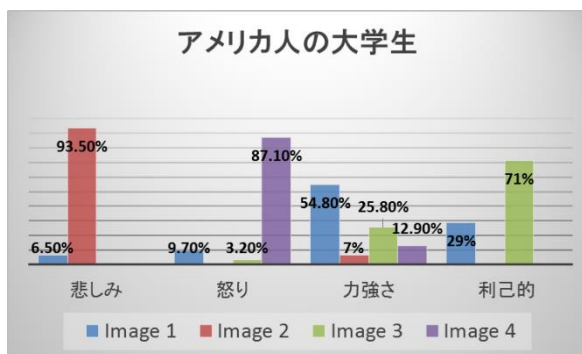


ここで研究質問1の調査結果のまとめべる。アメリカ人と日本人の学生どちらも歌舞伎を楽しみ、より大きな関心を示している。喜劇の歌舞伎がもっとあった場合、より多くの大学生が劇場で歌舞伎を見る可能性があるかもしれない。現在において、アメリカの大学の学生は、女性が歌舞伎を演じることに賛成であるのに対して日本人の学生はこれに反対している。

5.2 研究質問2: 現在社会の若者たちは歌舞伎の本質を理解することができる。

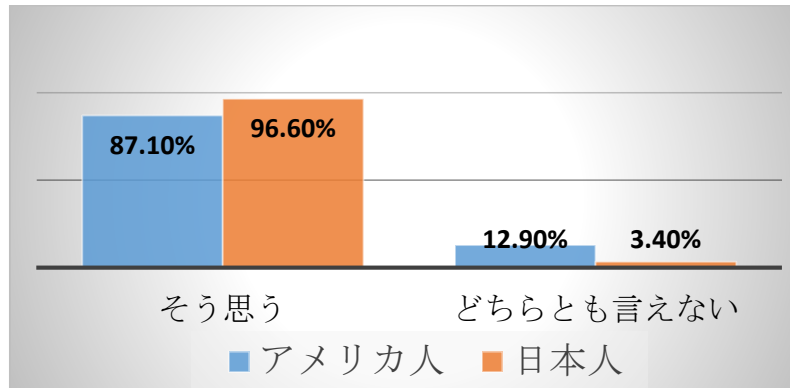
8 図: 限取と表情

表情の区別に関しては日本人は怒り、力強さ、悲しみを区別することができましたが。アメリカ人は利己的な表情も全て区別することができた。



9 図：化粧の効果

化粧の効果に関してはアメリカ人と日本人の大学生どちらも化粧が俳優自身がより一層観客を惹きつけるための特殊効果となることに賛成している。



研究質問2の調査結果のまとめとしてアメリカ人の学生が日本人の学生よりも歌舞伎の隈取で表現する感情を理解することができた。アメリカ人も日本人も化粧は演技より面白さに貢献しているとみている。

6. 結論

歌舞伎は、大学生にとって興味い芸能として知覚されている芸術形式である。私はこの研究の前に、大学生は歌舞伎に興味がないと思っていたが、間違っていたとわかった。学生は劇場で伝統的な歌舞伎を見ることに興味があるようだ。アメリカの大学生は女性も歌舞伎を演じるべきだと答えたのに対し、日本の学生は反対している。この姿勢の違いはそれぞれの国の文化を反映している。

7. 限界点と将来研究課題

この研究は少人数の回答者のため一般化はできない。将来の研究課題としては化粧と表現についてもっと深く追及したい。また歌舞伎界での男女平等の問題に関してもさらに追及したい。

参考文献

- Brandon, J. (1999). Kabuki and Shakespeare: Balancing Yin and Yang. *TDR*, 43, 15-53.
- Edelson, L. (2009). *Danjūrō's Girls : Women on the Kabuki Stage*. New York, NY: Palgrave Macmillan, T., & Lee, W. (2003). Artistic Direction in Takechi Kabuki. *Asian Theatre Journal*, 20, 12-24.
- James R, B. (1998). Two forms of Japanese Theater. *Asian Theatre Journal*, 15, (20), 253-269.
- Leiter, S. (2002). *A Kabuki Reader: History and Performance*. Armonk, N.Y: M.E. Sharpe.
- Pronko, L. (1969). Freedom and Tradition in the Kabuki Actor's Art. *Education Theater Journal*, 21, 139-146.
- Ōkura, S. , Keene, D. , Kamimura, I. , & McIvor, K. (2001). *Kabuki Today: The Art and Tradition*, Tōkyō: Kōdansha Intānashonaru.
- Sadler, A. , & Atkins, P. (2010). *Japanese Plays: Noh, Koygen, Kabuki*. Tokyo: Tuttle Pub.
- Soeda, H. (1971). A Kabuki Stage. *Concerned Theater Japanese*, 2, 22-23.
- Tsubaki, A. (1977). The Performing Arts of the Sixteenth Century Japan: A prelude to Kabuki. *Educational Theatre Journal*, 29, 299-309.